



第 17 号

2013年
慈英病院
広報誌

慈英病院の理念

真心込めた医療を提供し、皆様に愛される病院を目指します

七夕



一ツ葉稲荷神社へ短冊を奉納して参りました。

お願いごとは「家族の幸せ・健康」「自分の健康」と書いての方が多かったように、「いい人が現れますように」といった願い事もありました。

「七夕」には短冊に願い事を書いて、笹の葉につるし、七夕の晩にだけ逢うと「彦星（わし座・アルタイル星）」に、短冊に書いた願い事をかなえて貰う。

太古においては世界樹又は宇宙樹と呼ばれる信仰がありました。それは地上と大の中心の北極星を結ぶ、宇宙の軸としての特別な「樹」でありましたが、地球の歳差運動（太陽と月の引力などの影響で起こる独特の回転現象）により、北極星は「こと座のベガ星」から「こぐま座α星又はβ星へ」と徐々に移動してしまいました。ここに東と西それぞれに言わば神が出来ました。それが「西王母（せいおうぼ）」と「東王父（とうおうふ）」です。この信仰がやがて「織姫」と「彦星」に変化して行った様です。そして七夕説話に基づいた乞巧奠（きこうでん）を、宮中行事として初めて行ったのが楊貴妃と玄宗皇帝でした。日本で最初に七夕の行事をしたのは持統天皇であると言われていいます。基本的に、日本の七夕は本来の節句行事である中国の二星伝説と乞巧奠（きこうでん）、それに日本固有の棚機女（たなばたつめ）の信仰が習合したものと考えられています。ただ、宮中では平安時代から星の伝説にあやかって裁縫が上達するようにと祈る乞巧奠が行われるようになったものの、民間の七夕としては、日本固有のタナバタ神を迎える行事としての性格が強く表れていました。しかも、地域によっては七夕とそれに続く盆をひとつのまとまった行事として捉えているところもあります。たとえば、仙台の「七夕」は全国的にたいへん有名ですが、同じ東北の夏祭りの代表である青森の「ネブタ」や弘前の「ネブタ」、秋田の「竿燈」、能代の「七夕燈籠」なども実は仙台の「七夕」と同じ「ネムリ流し」の系統に属する行事なのです。そこには、日本在来のタナバタの一つの類型を見出すことができます。

みなさまの願い事が叶いますように職員一同願っております。

家族教室「口腔ケア・歯の大切さ」

今回の家族教室では、青山歯科医院の青山先生を講師に招き、「口腔ケア・歯の大切さ」についてお話を頂きました。又、当院の口腔ケアの方法を実演を交えながらご説明し、実際にご家族にも体験して頂きました。

口腔ケアの目的は、口腔内衛生のためだけでなく、食べる、飲み込む、笑う、しゃべる、など大きな喜びにつながる機能維持・回復のためでもあります。口腔内は、歯や粘膜、舌、義歯などにいろいろな細菌が集団で生息しています。ケアを適切に行わなければ、細菌が増加して誤嚥性肺炎を起こしやすくなります。口腔ケアは、全身状態に影響する大切なケアです。実際のケアでは、口腔内の乾燥が強い方、経管栄養の方、脳血管障害で麻痺のある方、それぞれに合ったケアを提供しています。又、口腔ケアを行うことで、食べる機能、話す機能を保つことは、食欲を増進させ、体力をつけ、人とのコミュニケーションを可能にし、生きる意欲へとつながります。このように口腔ケアは、高齢者の QOL（生活の質）の向上をはかるために大切なものです。口腔ケアのメリットとして、口腔内清掃（器質的口腔ケア）と口腔ケア機能回復（機能的口腔ケア）に別れます。器質的口腔ケアとは、歯磨きや、入れ歯の洗浄、口腔内の粘膜・舌の清掃などをいい、機能的口腔ケアとは、食べる、話す等に必要な訓練・運動をいいます。口腔ケアを続けることは、誤嚥性肺炎を防ぐだけでなく、口腔機能（食べる・話す・コミュニケーション）を向上させるためのケアでもあります。



今回の家族教室では、22 名のご家族に参加して頂きました！次回も是非ご参加ください！

認知症研修会

認知症研修会を7月24日と8月7日の2回に分けて行いました。1回目は前田正存院長が行い、2回目はエーザイ・ジャパン河口先生にご講演頂きました。研修の概要をご紹介します。

1.認知症とは？

認知症は、一度獲得された認知機能が低下してくるものを言います。簡単に言うと記憶力障害つまり物忘れ等により生活や社会生活に障害を来す状態になった事を言います。

2.認知症の症状

(1) 中心となる症状(必ず起こる症状)

- ・記憶障害（比較的新しい記憶から障害されることが多い。逆に昔のことはかなり症状が進んでも良く覚えている。）
- ・見当識障害（日付けや場所などがわからなくなる。近所でも道に迷ったりする。）
- ・判断能力の障害
- ・問題解決能力の障害（例えば、予想外のことが起こると混乱する）
- ・実行機能障害（計画を立てたり、手順を考えたりできなくなる）

(2) 周辺症状(必ずしも症状として発現しない場合がある)

- ・自発性の低下・幻覚・妄想・睡眠障害・せん妄・徘徊・暴言や暴力行為

3.認知症に対する治療

治療は医療機関では薬物療法が中心で、アルツハイマー型認知症に対してのみ健康保険が適応され、さらに全ての認知症に効果があるわけではない。この薬で認知症状を治す事は出来ず、病気の進行を遅らせる事が出来る。早期に診断されるほどより軽い状態を長く維持できる。早期に診断をさせる為には、まず家族が患者本人を「認知症かもしれない」と疑い、医療機関を受診させる必要があります。

4.介護の心がけ

- (1) 安心感が大切～本人の好きな音楽をかけたり、興味を持っているものを身近に置くなど不安な気持ちを和らげる
- (2) 否定しない～否定的な言葉や態度は、本人が不安になるばかりでなく、介護者に不信感を抱く原因になります
- (3) ペースを合わせる～せかさずゆっくり見守ることが大切です
- (4) 出来ることを、出来るだけ～小さなことでも役割をつくることで自信がつき気分が安定します

※一番大切なことは、「認知症患者の言動だから理解できなくて当たり前」ではなくて、患者の立場になって考えるようにすることです。

簡単にできる夏バテ解消レシピ

7月22日は土用の丑の日でした。鰻には疲労回復に有効なビタミンB1が多く含まれ、夏バテ予防には効果的な食材といえます。ビタミンB1は、アリシンと一緒に摂ることでアリチアミンとなり、さらに疲労回復効果を期待する事が出来ます。

今回はこのビタミンB1を多く含む豚肉と、アリシンの豊富にんにくで作る肉味噌のレシピをご紹介します。

この肉味噌は作り置きして麻婆豆腐などにアレンジする事も出来ますが、夏野菜をたっぷり使うことで暑さに強い体をつくる事が出来ます。

トマトやきゅうりなどの夏野菜は余分な熱を取り去り、体を冷やしてくれます。夏の疲れを秋に持ち越さないためにも、辛味や酸味をうまく利用してしっかり食べ、残暑を乗り切りたいですね。



☆分量☆ (2人分)

☆ジャージャー麺風素麺☆
そうめん・・・3束
肉みそ・・・150g
きゅうり・・・2本
お好みの薬味・・・適量

☆夏野菜の焼きサラダ☆

お好みの夏野菜 300g
酢・・・大さじ2
薄口醤油・・・大さじ2
胡椒・・・少々

☆ミニトマトのコンポート☆

ミニトマト・・・10個
水・・・200cc
砂糖・・・大さじ3
レモン汁・・・小さじ1

☆作り方☆

ジャージャー麺風素麺

- ① ゆでて冷水にとったそうめんの水気を取り、器に盛り付ける。
- ② 肉味噌をのせ、食べやすく切ったきゅうりを盛り付け、お好みで白髪ねぎやラー油などの薬味を添える。

夏野菜の焼きサラダ

- ① 野菜は大きめに切り分け、油(分量外)をなじませておく。
- ② 温めておいたグリルで5~6分、裏返してさらに5~6分焼く。
- ③ 酢、醤油、胡椒を合わせたものをさっとならめて器に盛る。

ミニトマトのコンポート

- ① ミニトマトは湯通しし、皮をむく。
- ② 砂糖、レモン汁、水を小鍋で温め、シロップを作る。沸騰したらすぐに火を止め、トマトを入れて冷まし、冷蔵庫で一晩以上漬ける。

☆肉味噌の作り方☆ (4人分)

- ① 長ねぎ、にんにく、しょうが、それぞれ20gは全てみじん切りにし、豆板醤と共に炒め辛味を立てる。ひき肉300gを投入し全体に火が通ってきたら味噌、砂糖、酒、それぞれ大さじ4を加えなじませる。
- ② 鶏がらスープ160ccを加え、少し煮る。
- ③ 全体に火が通りきったら胡椒を振り水溶き片栗粉をゆっくり回し入れ、とろみがついたら火を止める。ごま油大さじ1を回しかける。

日本医療機能評価機構 Ver.6 認定証取得

医療と介護が互いに支え合う地域連携システムが発展してきた今日、慈英病院が慢性期病院としての質を高め、地域の中で役割を果たしていくために、平成23年の暮れに日本医療機能評価機構による病院機能評価受審を決意しました。

まずは平成24年1月に各部門代表者20名による受審準備委員会を立ち上げ、自己評価調査票をもとに現状把握を行い改善すべき所を明確にしました。結果は惨憺たる有様で取り組むべき課題の多さに呆然としました。とにかく一つ一つ業務の改善に取り掛かりますが、全く初めての試みなので何をどの位改善すれば認めてもらえるのか戸惑うことばかりです。3月に正式に受審申請を行い、4月には受審病院説明会に東事務長と江藤看護師長が参加し、いよいよ気運が高まってきました。

訪問審査日を平成25年2月に決めると、後戻りできない覚悟と期限までに成し遂げなければならない焦りがのしかかってきました。毎月1回の会議で部門ごとの改善状況を確認しながら進めていきます。ところが夏を迎える頃、まだ半年あると言う気の緩みか何となくペースダウン。少し嫌気がさしたのかも知れませんが、そうしてグズグズしているうちに夏が過ぎて行きました。

10月頃でしょうか、急に追い詰められた気持ちになりテストの前の一夜づけよろしく再びペースアップ。現況調査票なる膨大な資料をまとめて提出したのが11月30日、自己評価調査票による最終評価を行い提出したのが正月覚めやらぬ1月5日と年末年始は慌ただしく過ぎて行きました。年が明けても2月7日の訪問審査に向けて更に改善は続きます。そして迎えた2月6日。1年間かけて整備してきた書類を審査領域ごとに分類し、何度も何度も確認しました。それでも不安は消えません。そもそも今回の受審は、自分たちの病院が第三者の専門家からどの様に評価されるか知ることであり、必ずしも「認定」に拘らないはずでしたが、1年間苦労したことで欲が出たようです。訪問審査の当日は、質問を受ける緊張と不思議な興奮でアツという間に時間が過ぎていきました。訪問審査の印象は、医療監視など行政機関が行う調査とは趣きが違うなというものでした。基準どおり病院運営を行っているか取り調べるような印象はなく、私たちの病院を良くするためにわざわざ宮崎まで来ていただいているという印象です。

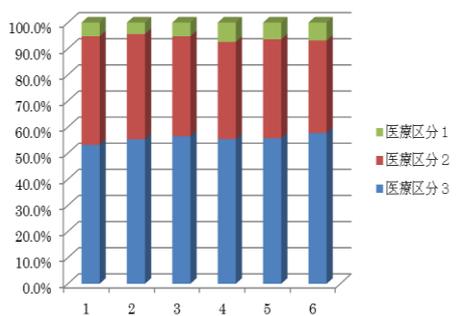
訪問審査が終わりホッと気が抜けてから2か月後の4月4日、待ちに待った中間報告です。結果は予想どおり、まだ認定はもらえません。指摘された14項目の改善に再度取り組み5月1日に書類提出。2ヶ月後の7月5日、ようやく認定をいただきました。

7月5日現在、認定病院は全国に2381病院あります。私達はやっとこれらの病院の仲間に入れました。これから更に上を目指して頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

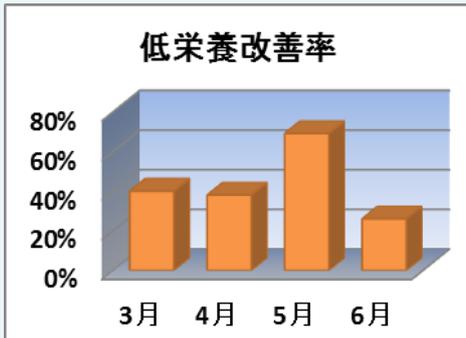


クリニカル・インディケーター

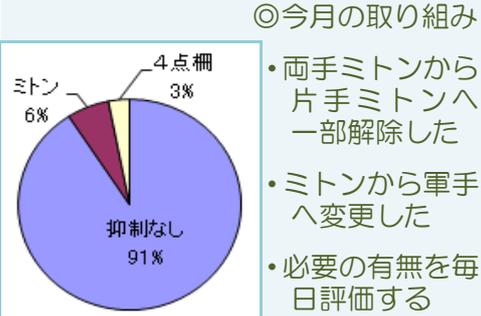
入院患者の医療区分別割合



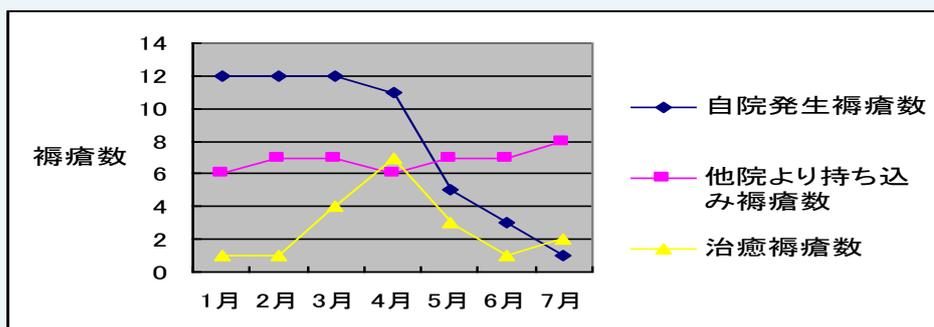
栄養状態が改善した患者割合



抑制の実施率 H.25.7.31 現在



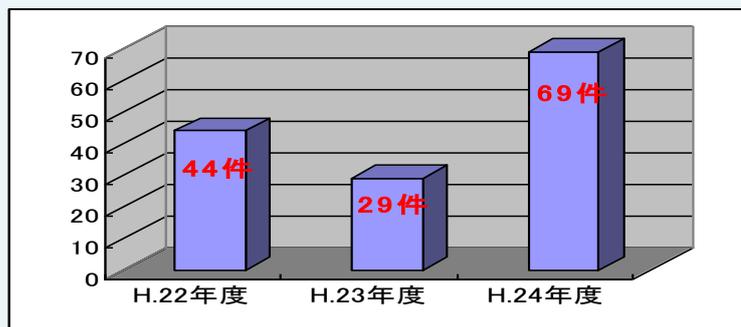
褥瘡の保有率と治癒率



1人に対するリハビリ実施回数



インシデント・アクシデント「転倒・転落」報告件数



- 【転倒・転落を防止するための取り組み内容】
- ◎ 転倒・転落専用のインシデント・アクシデント報告書を作成しました
- 転倒・転落時の周囲の環境を細かく絵で記入します
 - 患者さんの訴え・状態から原因を考えます
 - 防止対策を明確にします。(5W1Hで記入します)
 - 必ず1週間後にカンファレンスにて評価します

敬老会

今年も敬老会を開催致します。どうぞご参加ください。

開催日 : 平成 25 年 9 月 8 日(日曜日)
 開催場所 : 1 階・リハビリテーション室
 時間 : 1部(10:30~11:30)
 2部(13:45~14:45)
 3部(15:45~16:45)

患者様の長寿のお祝いと敬意、また感謝を示す機会でもありますので、ご家族の方々にもご参加いただきますようお願い申し上げます。

次回の家族教室

現在、認知症の患者さんは増加しています。正しく認知症を理解する事が求められています。

次回の家族教室では、当院長から認知症について分かりやすく解説していただく予定です。

開催日 : 平成 25 年 11 月 9 日(土曜日)
 開催場所 : 1 階 研修図書室
 開催時間 : 14:00~15:00
 内容 : 「認知症について」
 講師 : 慈英病院院長 前田 正存



診療科目: 内科・神経内科・リハビリテーション科
 〒880-0853 宮崎市中西町 160 番地
 TEL 0985-23-5000 FAX 0985-23-5886
<http://www.jiei.jp> e-mail info@jiei.jp

編集委員

江藤裕子 長友智子
 黒木咲野 清泰蔵
 砂地優宏 戸高布美子
 黒松和子 甲斐俊英
 東洋一 浜田和子